



大目如來緣起



千厓文庫
文庫24
A793



柳寛父年中武江佐久間氏の何来

大日如来乃言 軀を納の意を尋求す

年来台使而此下女にだけと少く有らり

幼時より三寶小御所 影無非を志す

深く白淨信心尤り其常小懐し心而と忍ぶ

殺味と号しひの里を免ふえお海そるるに

おんをて穢色けうれとて悲あはれて是と頂戴てうたいとせしむ
おとくおの幸かう常じょうくわくくわくとてさうりさうり

日園ひま比企こちり郡小湯殿戒行密園ひまなり

正身せいじん比大日如來と深ふかせんせんと教しよひひじじふふああと

運うん幸こう一教いちくわう年ねんなりなりの或ある在あるる後ごふふ汝なん如來と

深ふかせんせんと形かたちくくと武江佐久間氏何某なに比ひ下げ女

汝なんああせせよよと見みぬぬ後ごささめめぬぬののふふととは

揚あるる後ごふふおおししををききハハ衆しゆ幸こうななくくたたつつ子

来きりりてて後ごのの告つげげなりなりとと決けつつしし長ちやう跪くわい合ごう掌しやう

一い女にょ西せい氏し深ふかととききハハ光くわう明めい十じゆ方ほうとと照てうせせりり云

未ま世せなりなりとともも威い應おうののいいちちけけきき幸こうなりなり

婦ふ一いささあありりたたげげハハ年ねん目め小滅せうめつ度どふふいいららぬ

賢雲たるしと矢未嘗一見聞の軍禰先

念佛隨喜此信心と教一有のくも盧遮那

佛能生と成せんとたむ所一かりお女人の身と

現一あふめりうのへお佐久間氏をむ事なく

若干の金銀と抛うち有一西教の言像と

彫刻一相州湯殿月山相兼山心靈場此蘇

年納一永く佛の具るとなるの黄金堂小安屋

又佐久間氏乃年納のまへとく佐久間大目が

佛の世の志る系がれくくく不記之此金の

行者も能化此人或説已身或説他身等之を仏

地母理ふして教あり一能生と行守と云

隨所應度の悲れへの湯殿戒りの徳なるを
たらしまらふひるをやたの身とぞやうとむかたけ
大日此等えん像ぞう靈れい驗げん日くふのくくわり可か言ご可
信しん一いつ度たび如に來らとと洋やうししなる常じょうハ湯殿ゆでん山さん所しよ女にょ地
とぬとなるふなるととくく現げん世せ安あん徳とく後ご生せい處ちよ處
祿りくひひうう志しくくいい海かい長ちやうとと別べつるる女にょ人にん成じやう佛ぶつの

同位どういありてにせりみ障さん三さん坂さんの罪つみとと免げ解げ脱だつ志しあり
と云いふ

お相國あいにく相あ美み山さん林りん兼けん黃わう金こん堂だう
佐さ久く間ま大だい日にち如に來ら界かい縁えん起き

元文げんぶん六ろく庚かう申しん年ねん七しち月げつ日にち
羽う黒くろ山さん兼けん
蓮れん臺たい寺じ

